



北区の部屋だより

第116号

2019年3月



刊行物登録番号 29-2-124

編集発行：北区立中央図書館「北区の部屋」〒114-0033 北区十条台 1-2-5 ☎03-5993-1125 平成31年3月発行

北区 こぼれ話 第116回

史料の読み方 ～「御」の字の意味～

言うまでもなく、歴史資料を読む際には、そこに記されている用語や文章の言い回し等を一つ一つ丁寧に確認し読み進めていく必要があります。例えば、単語に「御」が付いているかどうか。これだけでも全く違った意味になってしまうことがあるので要注意です。

「御」の意味について、一般的には「他人の行為、持物などを表わす語に付いて、それをする人、それを持つ人に対して尊敬の意を加える」（『日本国語大辞典』小学館）と解説されます。古文書等でもよく用いられますが、江戸時代の村々では、徳川幕府や村の領主、代官といった支配層の行為に対して「御」を付けていました。

文化8年(1812)12月、王子権現社（後の王子神社）は寺社奉行所に対し、神社の「御修復」を求め願書を提出しました。単なる「修復」ではなく「御修復」ですので、幕府の行為による修復を意味します。すなわち、“幕府の費用をもって、幕府の責任で神社を修復して欲しい”と出願したことになります。この「御修復」に関する詳細については『文化財研究紀要別冊第14集王子村大岡家文書調査報告書Ⅰ』を参照いただければと思いますが、これがもし「修復」願いだっただろうという意味になる

でしょうか。「御修復」ではなく、単に「修復」ですので、神社の修繕を王子権現社自らが行うことになります。そのように書かれた願書の場合は、“神社を修復したいのでよろしいでしょうか”と幕府に許可を求めた願書ということになります（神社自身が自らの建物を自らの費用で修繕するのに幕府の許可が必要なのかと疑問に思う方もいらっしゃると思いますが、江戸周辺地域は幕府の「鷹場」の範囲に含まれますので勝手に修繕できず、幕府の許可が必要になります）。「御修復」か「修復」か、それだけでも意味が変わってしまうのです。

「御用」があって出かけたといえ、何か用事があって…ではなく、領主に呼び出され、もしくは領主に命じられて出かけたことを意味します。「御馳走」も単なる料理ではなく領主から振る舞われた食事を、「御覧」も領主（はたまた将軍）が見たことを意味します。かなり細かい

ことですが、歴史資料を読み解く上では、結構、大切なことです。

（地域資料専門員 保垣孝幸）



王子神社



北区の部屋 今月の展示

テーマ：春爛漫 ～「北区の部屋」の所蔵資料から～
期 間：3月1日（金）～3月28日（木）
場 所：「北区の部屋」企画展示コーナー

「北区の部屋」に所蔵している「春」にまつわる様々な資料を紹介します。ぜひ「北区の部屋」で「春」をご堪能ください。



図書館閉館のお知らせ音楽を リニューアルしました！

北区立図書館80周年・北区図書館活動区民の会10周年を記念して、2月1日（金）より閉館音楽が、北区在住の中山うりさん作曲による「石神井川であいましょう」に変更されました。アナウンスも中山うりさんご本人の声です。

「石神井川であいましょう」は2014年6月4日リリースされた、中山うりさんの「鰻」というアルバムに収録されています。このアルバムは北区立図書館15館で貸出しています。

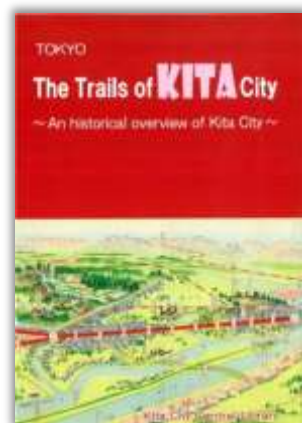
北区民著作のため、各館地域資料のコーナーに配架しており、中央図書館のみ、CDコーナーと北区の部屋に置かれています。詳しくは、直接カウンターに配架場所をお尋ねください。

【書誌番号 3-0002975633 ・ 3-0002669568 】



『TOKYO 北区の KITA みち～目で見える北区の歴史～ （英語翻訳版）』を刊行します。

平成30年4月に刊行以来、大好評をいただいている『TOKYO 北区の KITA みち～目で見える北区の歴史～』。外国の方にも北区の歴史を知っていただきたく、このたび英語翻訳した『TOKYO The Trails of KITA City ~An historical overview of Kita City~』（A4判・本文112頁・フルカラー）を刊行します。この本は、区内各図書館でご覧いただけるほか、下記の場所で販売いたします。



閲覧・発売開始日：3月20日（水）

定価：500円

頒布場所：中央・赤羽・滝野川図書館・

区政資料室（北区役所第一庁舎）・飛鳥山博物館

区内の一部書店（詳しくは中央図書館まで）





北区の部屋だより

2019年4月

第117号



刊行物登録番号 30-2-121

編集発行：北区立中央図書館「北区の部屋」〒114-0033 北区十条台 1-2-5 Tel.03-5993-1125 平成 31 年 4 月発行

北区
こぼれ話
第117回

『明治天皇紀』の飛鳥山と キーンさんの飛鳥山



平成最後の桜の季節です。桜と言えば飛鳥山ですが、歴史上、初めて飛鳥山に行幸された天皇は明治天皇でした。明治 5 年(1872)10 月 8 日のことです。明治天皇の正式な記録『明治天皇紀』(吉川弘文館 平成 12 年 第 2 刷)の第二巻には、次のようにあります。

「午前九時騎馬にて御出門、東京府下王子村附近に幸す、皇太后・皇后馬車に駕して列を同じうしたまふ、郷社王子神社祠掌大岡家等の家に於て御昼餐を取り、午後飛鳥山の秋色を賞覧し、滝野川村金剛寺の紅葉、染井村伊藤金五郎栽培の菊花を觀たまひ、五時還幸あらせらる」

初の飛鳥山行幸は、秋だったのです。王子神社や金剛寺もコースに組まれていました。本年(平成 31)2 月に逝去されたDonald・キーンさんは、名著『明治天皇』(角地幸男訳 新潮社 平成 13 年)を残されましたが、この行幸については触れていません。

二度目の飛鳥山行幸は、明治 9 年(1876)4 月 14 日のことです。キーンさんは、この行幸については『明治天皇』の中で触れています。

「王子の製紙工場を見学し、飛鳥山で桜を愛でた後、天皇は染井村にある木戸孝允別邸に立ち寄った」(上巻、407 頁)。

このあと、木戸孝允別邸での事跡に関して詳しく書いています。章末の註にも「木戸の別邸は、現在のJR駒込駅近くにあった。明治天皇臨幸を記念する石柱が

立っている」とあります。飛鳥山についても詳述していたかったと思うのが、北区民にとっての人情だと思うのですが、キーンさんが参考にした『明治天皇紀』は全 13 巻(うち索引 1 巻)という膨大な資料です。その中から、飛鳥山行幸に触れて下さったことは、むしろ感謝に値するでしょう。では、二度目の飛鳥山行幸は『明治天皇紀』に、どのように記録されているのでしょうか。その第三巻には、次のようにあります。

「太政大臣三条実美・右大臣岩倉具視・侍従長東久世通禧等を従へ、騎馬にて府下北豊島郡飛鳥山付近に幸す、王子村扇屋早船弥三右衛門の家に御少憩、御昼饌を取りたまひて、同村大蔵省紙幣寮所管抄紙局及び抄紙会社に臨御し、工場を巡覧したまふ、抄紙局は是の歳二月落成し四月五日開業式を行ふ、又抄紙会社は三井次郎右衛門等の創立する所にして、明治八年其の業を開始す、実に本邦洋紙業の嚆矢にして、王子製紙会社の前身たり、抄紙局及び抄紙会社より製紙を献る、酒肴料として抄紙局に金十五円を、抄紙会社に金五十円を賜ふ、尋いで飛鳥山に登臨したまふ」

料亭として栄えた卵焼きの名店、扇屋と当主の名が出てきます。また、抄紙局と王子製紙の前身である抄紙会社の見学が、コースに組み込まれていたことも分かります。続いて「御製中明治十一年前の部に、『あすか山の桜を』と題したまひて」として

あすか山あす散りなむと思ひしに
はからすもみる花さかりかな
小車のをすひきあけてみわたせば
ちりのこりたる山さくらかな
とあるは蓋し当時の御製なるべし

と明治天皇御製の短歌が二首掲げられています。これらの意味は「飛鳥山の桜が明日にも散るにちがいないと思ったところに不意に見る花盛りであるな」というものと「小車の小簾を引きあげて見渡せば、散り残っている山桜であるな」というものです。

【地域資料専門員 黒川徳男】



飛鳥山の桜

北区の部屋
今月の展示

『さようなら平成 ー北区ではこんなことがありましたー』



○展示場所:「北区の部屋」展示コーナー
○展示期間:3月30日(土)~4月24日(水)



■平成という時代を一言で表せば、人それぞれのことが紡ぎだされるでしょう。「日本近現代史上、初めて戦争がなかった時代」「大災害が多かった」「バブルで始まり格差社会で終わった」「炎上とポピュリズムの時代」「とにかく夏が暑かった」……

■北区にとって「平成」とは、どんな時代だったのでしょうか。今月の展示では、大事件からマニアックな話題まで、北区の約30年間を振り返ります。そして、あと僅かとなった平成を惜しみ、新時代の到来を寿ぎたいと思います。

平成29年9月 王子駅前の虹 ひがしおかはるこ 東岡晴子氏撮影

平成の時代、王子駅前の風景は、銀行の合併や店舗の盛衰により、急激に変化していきました。

公開歴史講座を
開催しました。

『名主VS惣百姓 ～村役人を糾弾する百姓たち～』

3月9日(土)、中央図書館にて、日本近世史研究家：保垣孝幸講師による「村方出入(村方騒動)」を題材にした公開歴史講座が開催されました。「村方出入」とは、江戸時代後期、村運営を背景に百姓(村人)が村役人に対して起こされた紛争のことです。

当時、北区域には16ヶ村・1宿があり、名主・年寄・百姓代と呼ばれる村役人が運営を担っていました。中でも年貢に関する仕事は一番重要でした。当時の年貢は「村請制」と言って村単位で賦課され、それを名主が百姓たちに割り掛けて徴収し、領主に納めていたのです。中には不正を働き訴えられた名主もいたのでしょうか。保垣講師はそんな村方出入の事例を二つ取り上げ紹介しました。

一つ目は豊島村の百姓弥三郎が領主に名主武兵衛を訴えた件です。これは名主の年貢横領と畑地を取られたことに対する訴えで、旧豊島村石井家文書には訴えからそれが解決に至るまでが記されています。この件は隣村の村役人が仲介に入って示談となり、①弥三郎が名主に横領の言いがかりをつけたことを謝罪すること、②弥三郎が訴えた土地は元から名主の土地であったとすること(境界が不鮮明で弥三郎が勘違いしていた)、③二人は親戚同士なので今後も仲良くしていくこと…ということで手打ちとなりました。

二つ目は名主の後継者問題についてです。袋村の土地の所持関係を巡り、地主六左衛門と名主利兵衛が争ったことが発端で、六左衛門が利兵衛には名主になる資格はないと訴えました。旧袋村松澤家文書によると、この紛争はお互い引かず、村役人が選定できない期間が10年以上も続いたとありました。

今回の講座は、江戸時代ならではの人間関係やもめごとを通し、当時の人々の生活や思いが浮かび上がってくるようでした。しかし、事件が起きなければ記録に残りません。保垣講師の「江戸時代も現代も何か事件がなければ記録が残らないので、記録ばかりを研究すると、江戸時代が、事件ばかりのように錯覚される」との説明に、参加者一同「確かに！」と頷いていました。あまり触れられることのない江戸時代の百姓の色々な話に、参加者は熱心に耳を傾けており、休憩時間や講演終了後には講師へ質問が集中しました。アンケートでも、当時の百姓のことがわかって面白かった、他の村の事例も聞きたかった…などの感想をいただきました。



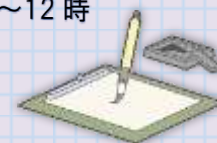
保垣孝幸講師

古文書入門講座の
ご案内

『北区の古文書を読んでみよう!!』

▶北区の古文書を題材に、くずし字の調べ方など初步の解説を演習形式で行います。

- ◆日 時: 5月10日(金)~6月14日(金) 毎週金曜日 全6回 午前10時~12時
- ◆場 所: 中央図書館3階ホール
- ◆講 師: 日本近世史研究家 保垣 孝幸 氏
- ◆定 員: 25名(抽選/区内在住・在勤・在学、18歳以上の方)
- ◆申 込: 往復はがきの往信用裏面に講座名、郵便番号、住所、氏名(ふりがな)、年齢、電話番号。
返信用表面には申込む方の住所、氏名を記入して下記宛先まで。4月23日(火)必着。
- ◆宛 先: 〒114-0033 北区十条台1-2-5 中央図書館 図書係 TEL:03-5993-1125





北区の部屋だより

第118号

2019年5月



刊行物登録番号 30-2-121

編集発行：北区立中央図書館「北区の部屋」〒114-0033 北区十条台 1-2-5 TEL03-5993-1125 令和元年5月発行

北区
第118回
いぼれ話

れいわ
「令和」改元記念？！

江戸時代の新年号の話



「平成」という時代が終わりを告げ、新たに「令和」という時代が始まりました。みなさんがお読みになっているこの『北区の部屋だより』も今号が「令和」での発行第1号ということになります。そこで今回は、江戸時代の改元、新年号周知の話を紹介します。

みなさんは「令和」という新年号を何で知りましたでしょうか？政府から事前に発表までの手順が公表されていたこともあって、発表当日の4月1日、朝からテレビを食い入るように見ていて、予定時刻を11分過ぎた午前11時41分、発表と同時にテレビで知ったという人も多いのではないのでしょうか。また、配信されたニュースをパソコンやスマートフォン等で知った方もいらっしゃるかも知れません。その日のニュースや翌日の新聞等もこの新年号「令和」一色でした。まさか、この『北区の部屋だより』で今、新年号を知ったという人はいないかと思えます。

こうしたテレビやラジオ、新聞といった広報手段がない江戸時代、新年号はどのように人々へと伝えられたのでしょうか。実は改元されると領主や代官から新しい年号についての触が村や町へと廻され、人々はそれで知ることになるのです。「文化 右の通り年号の改元が仰せ出されたので承知しておくように。以上」（『東叡山領町村古文書』より）。これは、「享和」という年号から「文化」という年号へと改元された1804年、その2月19日付で東叡山領代官田村権右衛門が支配村々へと通達した触の写しを現代語訳したものです。実際に江戸城で新年号の発表があったのが2月19日ですので、その日のうちには村々へと通達されたことが知られます。江戸時代は、現在と異なり皇位継承と改元に関係性がないため、いつ改元されるかは予想もつきません。ある日突然にこうした触が廻ってきて、人々は改元の事実とともに新しい年号を知るのです。

では、こうした触で新年号の使用は徹底されたのでしょうか。実際に地域に残る古文書を見ていくと、改元後も前の年号を用いて記しているものが少なからず確認できます。浮間村の立石家文書には「文久7年正月28日」と表記された古文書も残されています。「文久」は4年までしかなく、その後「元治」「慶応」となりますが、「文久7年」という表記が正しければ1867年、「元治」を通り越して実際には慶応3年ということになります。さすがにこれは数字の「7」の方が間違いかとも思いますが、実は誤記ではなく書いた本人は「文久7年」と「正しく」記していた可能性を捨てきれないのが江戸時代です。

それでもほとんどの古文書が改元後は新しい年号通りに表記しており、徹底されたとは言い難くとも、触を通じて人々のあいだに広く周知され、浸透していったと理解して概ね間違いはないかと思えます。 【地域資料専門員 保垣孝幸】



北区の部屋 今月の展示

にっこうおなりみち 日光御成道

期 間：4月26日（金）～5月22日（水）

場 所：「北区の部屋」企画展示コーナー



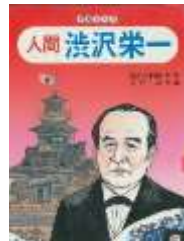
北区を南北に貫く「本郷通り」や「岩槻街道」は、江戸時代には日光御成道と呼ばれ、五街道と同じように整備された重要な街道の一つでした。今回の展示では、日光御成道のうち北区を通る部分を現在の風景とともに紹介します。これからの季節、みなさんも歩いてみてはいかがでしょうか。



しぶさわえいいち

渋沢栄一翁、一万円札の新しい顔へ

飛鳥山の地に邸宅を構え、王子製紙を創立した、北区にゆかりの深い
渋沢栄一の肖像が、2024年度上期から一万円札の新しい顔になることが決定しました！渋沢は金融、製紙、紡績、保険、鉄道など数多くの起業に携わり、社会福祉、教育の発展にも多大なる功績をのこしました。中央図書館では、北区の偉人渋沢栄一に関する数々の書籍を集め、特別展示いたします。



展示場所：中央図書館 1階入口近く柱周り

展示期間：4月18日（木）～5月22日（水）

* 新五千円札の津田梅子・新千円札の北里柴三郎に関する本も併せて展示しております。



北区の部屋 レファレンス あれこれ

北区の部屋では、北区に関する様々なご質問に、地域資料専門員がお答えしています。その中からひとつ、ご紹介します。



昔は富士山に登るのは容易ではなかったと聞きますが、大体どのくらい費用・日数がかかったのでしょうか？



昔の富士登山は、多くの費用と時間を必要としました。そのため、村人たちはお金をだしあって、代表者が登山をしました。これを「代参」と言います。『十条富士講調査報告書』*（北区教育委員会）によれば、十条を出発し、初日は八王子などで宿泊、二晩目は猿橋か大月に宿泊、三晩目に吉田の御師（参詣の案内をする宗教者）宅に宿泊、四晩目は富士山の七合五勺の熊室（山小屋）に宿泊し、五日目に山頂に到達。静岡県側に下山して、御師の家に宿泊。六晩目に大雄山の道了尊坊で宿泊。七晩目に大山阿夫利神社の御師の家に宿泊。八晩目は江の島に宿泊。九日目は川崎大師に参拝して川崎に宿泊。そこから羽田の穴守稲荷を経て十条に帰ったということです。このように、富士参拝は、各地の神社仏閣を経ながら約10日間の道のりでおこなわれていたのです。具体的にどのくらいの費用が必要だったかは明らかではありませんが、当時としては大旅行でした。

*『十条富士講調査報告書』書誌番号 3-0001474254 北区の部屋、地域資料コーナーに配架されています。



狐による恐怖の復讐劇 —文明開化の中で非科学的な新聞記事—



北区には、狐にまつわる場所がいくつもあります。王子稻荷神社・装束稲荷神社・王子の料亭扇屋・滝野川のきつね塚通りなどです。かつての北区域は、狐が住むほど長閑な農村だったのです。落語の「王子の狐」は笑い話ですが、一方で、狐にまつわる恐ろしい話も残されています。

明治時代、新聞には、狐狸妖怪、幽霊などについての様々な記事が掲載されていました。真偽の不確かな刺激的な記事が、多く掲載されていたのです。北区立中央図書館に、湯本豪一編『明治期怪異妖怪記事資料集成』(国書刊行会、平成21年)という厚い本があります。中央、地方の様々な新聞から、オカルトの記事を集録したものです。その中に『郵便報知新聞』明治7年(1874)3月14日号に掲載された「狐の復讐」という、北区域を舞台とする記事があります。

それによれば、明治7年(1874)2月15日、埼玉県上尾近くの荒川で、母親と男の子の溺死体が発見されました。二人は北区域の上中里村の住民でした。実は、二人の死の三年前、その女性の夫は、西ヶ原の国有林を伐採する仕事をしていました。ある日、仕事に狐の巣穴を見つけ、中に唐辛子を流し入れました。狐は、たまたま穴から逃げ出し、男を見て足を縮め、涙を流し、子をはらんだお腹を見せて、助けてくれとばかりに鳴いたそうです。必死の命乞いにもかかわらず、その男は狐を打ち殺しました。家に持って帰って食べようすると、お腹の中には、三匹の子狐がいたというのです。亡くなった子狐

たちにも、父親がいました。家族を失った父狐の怨みは、とても深いものでした。

そして、狐の祟りか、男はその年の末に病死してしまいました。父狐の復讐は、これで終わったわけではありません。男の妻の前に、たびたびその姿を現した

のです。妻は、狐を見て怯えました。そして、

明治7年2月15日、その日も父狐が

現れました。恐怖のあまりに、妻は子

を連れて家を出て、行方知れずにな

りました。搜索の結果、船方村

(堀船)の川岸に履物が脱ぎ捨て

てあり、入水したものと判断され

ました。船方村で入水したはずの

親子が、なぜ、遥か川上の

上尾近くで発見されたのか。その

謎について、記事には触れてい

ません。

この記事は「因果応報自然にし

て避くへからず、慎むべきが非道なり

」という言葉で締めくくられています。残酷な

ことをすれば、報いがあるものだ

と読者を戒めているのです。

ところで、明治5年(1872)には、新橋一横浜間で

鉄道が開通しています。当時は文明開化の時代で

す。しかし、新聞記事は、まだ、科学的常識を前提

とはしていませんでした。文明開化だからといって、

文筆家たちが急に科学的思考に転じたわけではな

いのです。むしろ、この記事からは、江戸時代の教

訓じみた怪談話の香りが漂ってくるようです。

(本稿執筆にあたり、王子に詳しい堀江真理子氏から

情報をご提供頂きました。感謝申し上げます。)

【地域資料専門員 黒川徳男】



+++ 今月の展示 ☆「北区鉄道の謎 10問 10答」+++

- 展示場所：「北区の部屋」展示コーナー
- 展示期間：5月24日(金)～6月26日(水)

浮間舟渡・北赤羽・赤羽・十条・東十条・王子・上中里・田端・尾久。北区内を正式な所在地とするJR東日本の駅は九つもあります。その他に、



東京メトロ南北線・埼玉高速鉄道・東京さくらトラムなどが走る北区は、鉄道王国と言えます。

今回、「北区の部屋」では、そんな北区の鉄道についてQ&A式の展示をします。鉄道が好きな方も、好きかどうか考えたこともない方も、ぜひご覧になって答えを考えてみてください。



+++ 古文書入門講座、始まりました！ +++

5月10日(金)より、古文書入門講座「北区の古文書を読んでみよう！！」が始まりました。これは北区の旧家から発見された江戸時代の古文書を教材に、文字の読み方や調べ方を学ぶという、古文書に初めて触れる方を対象とした、全6回の講座です。講師は日本近世史研究家でもある「北区の部屋」の保垣孝幸地域資料専門員です。本講座では文字の読み方だけでなく、その古文書に書かれた内容にある時代背景や、当時の北区域の村々の生活模様などの解説も入る

ため、毎年受講者の方からは古文書と一緒に北区の歴史も学べると大変好評を得ています。

テキストは、保垣講師が作成した『古文書解説 虎の巻』と北区の古文書4編です。初回と2回目は「虎の巻」を使って概要解説や古文書(くずし字)字典の使い方、よく使われるくずし字の^{へん} 偏や^{つくり} 旁などを学びました。3回目からは実際の古文書の解説に入りますが、回を追うごとに文字も文面も難しくなっていきます。図書館では、受講者が自宅で予習・復習が行えるよう、古文書解説字典の貸し出しを行っています、大半の方が字典を持ち帰っており、皆さんの熱意のほどがうかがわれました。



プロジェクターとホワイトボードを駆使して説明する保垣講師。



保垣孝幸 古文書講師

+++ スポット展示：赤レンガ図書館建造 100 年記念展示 +++

「赤レンガ図書館」の愛称の由来となった中央図書館の赤レンガ棟の部分は、大正8年(1919)に東京砲兵工廠内に建造されてから100年になります。それを記念し、軍事施設から図書館に再生されていく赤レンガ棟を工事写真や建築部材で紹介する企画展示が飛鳥山博物館にて開催されます。図書館からも何点か展示資料を提供していますので、興味を持たれた方はぜひ足をお運びください。



北区飛鳥山博物館ホームページより

- ◆場 所：飛鳥山博物館 特別展示室(観覧無料)
- ◆会 期：5月25日(土)～6月23日(日)
- ◆休館日：毎週月曜日
- ◆開館時間：午前10時～午後5時





北区の部屋だより 第120号

2019年7月



刊行物登録番号 30-2-121

編集発行：北区立中央図書館「北区の部屋」〒114-0033 北区十条台 1-2-5 ☎03-5993-1125 令和元年7月発行



隠れた地域の名産品 ～荒川沿岸の良質な土～

荒川（隅田川）を挟んだ両岸にあたる北区、足立区、荒川区域は、沿岸から良質の土が採取できることもあり、かつては多くの煉瓦工場が建ち並び一大煉瓦生産地帯でした。ここで採れる土は荒木田^{あらきだ}と呼ばれ、粘着力が強く壁土^{れんが}や瓦の原料としても用いられ、明治時代には煉瓦の原材料として利用されています。現在では荒木田土^{あらきだつち}とも称し園芸用の土として広く知られていますが、武蔵国豊島郡三河島村（荒川区）の字名荒木田^{あざめい}は、ここで採れる土を語源としていました。現在では特に産地に関係なく、同種の土を荒木田（もしくは荒木田土）と呼んでいます。さて、今回はこの荒川周辺の土をめぐる話を紹介します。

安政4年（1857）下谷通新町（台東区）の家持ち仁右衛門^{にえもん}が自ら所持する三河島村地内の畑の土を採り、自宅や土蔵の壁土に利用していたことが発覚し、鷹場^{たかば}を管理する鳥見^{とりみ}から「察当^{さつどう}」（叱ること）を受けるとい事件が起きました（『東叡山領町村古文書』、一橋大学附属図書館所蔵）。仁右衛門は、二年前に起こった安政の大地震によって自宅や土蔵の壁が崩落し、その修繕のために自らが所持する畑の土を採り壁土に利用しただけなのですが、実は「土取^{つちとり}」については以前から厳しく禁止されていたのです。さて史料によると、仁右衛門はこれを「売土^{うりつち}」にしたのではなく、全て自分用にしただけであったことから一部情状酌量が認められ、結果、「察当」となるのですが、このことから逆にかうした土が売買の対象となっており、自らの耕地の土を売却していた者が広く存在していたことが知られます。加えて、三河島村の村役人もこの一件で見回りの不十分さを詫びるとともに、以後の取締り強化を誓約していることから、隠れて土を売り払うことが頻繁に行われていたことも想像させます。

これは荒川区域の事例ですが、当然、隣接する北区域でも似た状況は起こっていたことでしょう。文化元年（1804）に岩淵宿^{いわぶちしゆく}と対岸川口宿^{かわぐちしゆく}との間で起こった境界争いは、岩淵宿の者が川口宿地内から勝手に土を掘り出し、普請^{ふしん}（土木工事のこと）に利用していると川口宿側が訴えたことから生じました（『岩淵宿町文書』）。岩淵宿がこの土を何に利用したかは定かではありませんが、河川敷の土が貴重な資源であったことが知られます。

かつて北区堀船にあった田中煉瓦工場の記録によれば、原材料となる土は、船方村（北区）や上尾久村（荒川区）、宮城村（足立区）、川口宿、青木村（いずれも埼玉県川口市）といった村々から掘り出され、船で工場まで輸送していたことが知られます（『田中煉瓦文書』）。近年、地域おこしの観点から全国各地でご当地名産品が見直されてきていますが、北区の場合、その土壌自体が地域の名産品だったのです。

【地域資料専門員 保垣孝幸】





地域のなかの小学校

期 間：6月28日（金）～7月24日（水）
場 所：「北区の部屋」企画展示コーナー



北区には現在35校の区立小学校が所在しています。今回の「北区の部屋」の展示では、「地域のなかの小学校」と題し、教育機関としてばかりではなく、地域に密着した公共施設としての小学校の側面を紹介したいと思います。



保垣孝幸講師

『古文書入門講座』終了しました



5月10日にスタートした、古文書入門講座「北区の古文書を読んでみよう！！」全6回が終了しました。保垣孝幸講師（北区の部屋地域資料専門員）作成のテキスト『古文書解説 虎の巻』には、「古文書って何？」から始まり、「古文書専用辞書の使い方」「扁や旁のくずし方早見表」「貨幣の単位」「十干・十二支」「月の異称」(注)等々の解説が書かれていました。『古文書解説虎の巻』と『古文書字典』を片手に、実際に北区域の旧神谷村、旧豊島村等で江戸時代に作成された古文書を読み解きながら講座は進められました。受講者の方々は大変熱心で、保垣講師のユーモアをまじえた講座を受講するうち、徐々に読める文字が増え、さらに北区の歴史も学ぶことの出来た6週間となりました。

(注) 月の異称に関しては『北区こぼれ話 2』に趣き深い話が掲載されています。

区内全15館でご覧いただけます。 [書誌番号：3-0002973682]



平和図書コーナー



北区では昭和61年に制定した平和都市宣言を記念し7月30日（火）から8月3日（土）までを平和祈念週間として、平和を願う、様々なイベントが行われます。図書館もこの取り組みに参加し、戦争や平和に関する図書を集め、平和図書コーナーを設けます。

開催期間

7月26日（金）～8月31日（土）＊休館日を除く

開催場所

- ・平和図書コーナー（一般書）
中央・滝野川・赤羽図書館にて
＊中央図書館では、「北区の部屋」の地域資料専門員が選定した資料を、1階入口正面柱周りに展示します。
- ・子ども向け平和図書コーナー（児童書）
全図書館にて
- ・ドナルド・キーン コレクションコーナー
中央図書館では「ドナルド・キーンと平和」をテーマに展示します。

北区の歴史に関わる資料を
探しています！！

皆様のお宅や会社に、北区に関する古い写真や映像フィルム（8ミリ・16ミリ）、地図や文書などが眠っていませんか？

このような資料を中央図書館『北区の部屋』では、大切な地域資料として収集・公開しています。江戸・明治期はもちろん、平成まで、大募集しています。是非ご協力ください。詳しくは「北区の部屋」地域資料専門員までご連絡ください。

お願いいたします。

